

平岡養一ゆかりの曲

通崎睦美 京都で木琴演奏会



マリンバ奏者の通崎睦美

写真Ⅱが10月19日、京都市の京都府民ホールアルティで「木琴文庫」と題した公演を開く。海外で活躍した木琴奏者、平岡養一の生涯を描いたノンフィクションの著書「木琴デイズ」を刊行したばかりで、平岡ゆかりの曲を演奏する。

日演奏を続けた名手だ。戦中・戦後は日本に帰国し、活動を続けた。通崎は10歳の時、京都で平岡と共演。28年後に平岡の愛用した木琴を使って演奏する機会があり、その後、彼の遺族から楽器を譲り受けた。

10年間、ラジオのレギュラー番組を担当し、番組で毎

公演では譲り受けた木琴でモーツァルトの曲や、通崎が作曲家の伊左治直に委嘱した新曲などを演奏する。「演奏でも、著書でも、平岡を知り木琴に興味を持つてもらうきっかけになれば」。著書は平岡が録音した多くの音源に当たり、音楽性豊かに描写した。「音楽家にしか書けないものを意識した」と話す。